

プレヒト
×
沖縄芝居プロジェクト
2023-2025
あゆみ

ドイツの劇作家・演出家のベルトルト・プレヒトによる『ゼチュアンの善人』(1940年)を下敷きに、琉球芸能実演家で演出家の嘉数道彦氏による作・演出で「沖縄芝居」の新作を創作し、2025年度にはーと大劇場での上演を目的として、2023年度より取り組みを始めたプロジェクトのこれまでの取り組みを紹介します。

『ゼチュアンの善人』あらすじ

善良な人間を探す三人の神に宿を貸したのは、貧しい娼婦、シェン・テだった。その善良な行為への報いとして神から大金を与えられ、彼女は商売を始める。ところがそれを知った人たちが金を借りに来たり、居座ったり。「善人」であることをやめられない彼女は従兄弟シュイ・タとなり厳しい態度で彼らを追い払うのだが…

原作:ベルトルト・プレヒト

1898年生まれ、1956年没。ドイツの劇作家・詩人・小説家・演出家。20世紀を代表する世界的な演劇人の一人。社会の枠に収まりきれない放浪の詩人を主人公にした戯曲『バール』でデビュー。『夜打つ太鼓』でクラリスト賞を受賞。作曲家クルト・ヴァイルとの共同作業による『三文オペラ』で世界的名声を確立。その後、『叙事演劇』と『教育劇』を構想、『処置』『ガリレイの生涯』『ゼチュアンの善人』等の傑作を書き、今なお世界中の演劇人に大きな影響を与えている。1933年、ナチスによる「国会議事堂放火事件」の翌日にデンマークに亡命、39年にスウェーデン、40年にフィンランドに移り、41年にアメリカに亡命。第2次世界大戦後、赤狩りの風潮の中で47年に非米活動委員会に喚問され、その後スイスに渡り、48年に東ドイツに帰国した。49年には『肝っ玉おっ母とその子供たち』で注目を集め、劇団『ベルリーナー・アンサンブル』を結成。54年には劇場を与えられ、パリの国際演劇祭で客演し、国際的な名声を確立したが、56年に心筋梗塞で急死した。20世紀のドイツを代表する詩人でもあり、『家庭用説教集』などの詩集がある。

●2024年2月17日（2023年度）

リーディング試演会 『ゼチュアンの善人』

会場:なはーと小劇場

『ゼチュアンの善人』の新翻訳から、劇団ピーチロックの主宰・演出家の新井章仁氏が上演台本を構成し、沖縄の現代演劇界を牽引する俳優がリーディング試演会を行いました。

[作]

ベルトルト・プレヒト

[翻訳]

林立騎(那覇文化芸術劇場なはーと)

[上演台本・演出]

新井章仁(劇団ピーチロック)

[出演]

井上あすか、仲嶺雄作(ukulelebowl)、

西平士朗(スタジオパフォ)、上門みき、

ジョイ大鷲(劇団ピーチロック)、

片山英紀(劇団ピーチロック)、

アサミ・ヴィクトリア、

大嶺佳奈(劇団ピーチロック)、

伊都(劇団ピーチロック)、岩田勇人、

古堅晋臣(ukulelebowl)、

犬養憲子(芝居屋いぬかい)、

上地広季、仲泊伽帆(劇団ピーチロック)、

東克明、屋宣秀高(Team いるかんと。)

[企画制作]

那覇文化芸術劇場なはーと、

株式会社アイランド・プロジェクト

[主催]

那覇市



〔撮影〕久高友昭

記録映像

12月5日から25日までの
期間限定公開



第一部



第二部

●2025年3月9日（2024年度）

朗読劇 『花染小の美ら姉』

会場:なはーと小劇場

リーディング試演会を観た嘉数氏が沖縄芝居の戯曲を新創作。作品の構造や物語の展開、うちなーぐちの台詞をまず知るために朗読劇という形で公開しました。

[作・演出]

嘉数道彦

[振付]

阿嘉修

[音楽]

仲村逸夫

[協力]

沖縄芝居研究会

[出演]

知念ア希、玉城匠、東江裕吉、金城真次、

宇座仁一、宮城茂雄、花岡尚子、伊良波さゆき、

伊禮門綾、高宮城実人

[地謡]

仲村逸夫(歌三線)、平良大(歌三線)、

池間北斗(箏)、入嵩西諭(箏)

[企画制作]

那覇文化芸術劇場なはーと、シアター・クリエイト株式会社

[主催]

那覇市



〔撮影〕大城洋平

記録映像

12月5日から25日までの
期間限定公開

